

# ゾウが東海道を歩いた!?

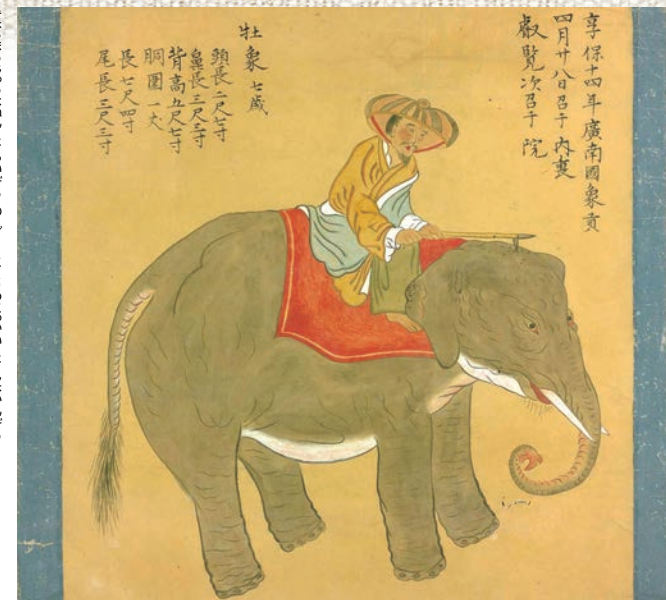
徳川家康が整備した東海道は、実は動物も歩いていたのです。鎖国していた日本の玄関口だった長崎・出島に1728年、広南（現在のベトナム）からゾウが到着しました。8代将軍徳川吉宗への中国人からの贈り物でした。ゾウは長崎を出発し、1日3〜5里（1里は約4キロ）の速さで江戸へ向かいました。途中、京では天皇にも対面しました。

東海道を東へ進み、浜名湖の北側を通る姫街道へ入り

ました。取り調べの厳しい新居関所を避けた女性が多く通ったことなどが姫街道の名前の由来とされます。浜松市浜名区三ヶ日町には、あまりに急でゾウが鳴いたことから「象鳴き坂」と名付けられた坂が今もあります。同区細江町気賀に泊まると町民に大人気だったそうです。翌日、ゾウは天竜川を渡って東海道を進みまし

た。大井川を歩いて渡り、金谷、岡部、興津、吉原、三島で宿泊しました。

一行はゾウの好物のまんじゅうや酒、ミカンを与えて元気づけ、雨が降れば休めました。沿道の村にはゾウの餌や水を用意するよう触書をだし、將軍への贈り物を細心の注意を払って守りました。そうして74日かけて1400キロ離れた江戸へ



享保十四年渡来象之図、国立国会図書館蔵



詳細は分かっていないゾウは浜松宿にも泊まったとされるが、

たどり着きました。動物園のない時代、二生に二度見られるかどうかの珍しい動物が東海道を歩く貴重な機会となりました。日本中が沸いたのは道があつてこそ出来事でもあり、吉宗が民衆に見せてあげようと思ったからだったのかもしれない。